

11月2日（水）

校長講話「笑顔の戸倉小」

この箱の中に何が入っているでしょう。それは「心」です。心のお話をします。心は命と同じくらい大切なものです。心を傷つけるものがあります。それはいじめです。

これは、いじめの矢です。

1本目は、体についての悪口です。「でぶ」「ごりら」などと言ってしまうことです。

2本目は、人の靴を隠す、筆箱を隠すなどのいじわるです。

3本目は、失敗したり人と違うことをからかったりすることです。

4本目は、ひとりぼっちや仲間外しにすることです。

5本目は、遊んでいるふりをして、たたいたり蹴ったりすることです。

6本目は、死ね、きもい、うざい、などの言葉を使うことです。

いじめられている人の心にはこのように矢がささっています。心は壊れてしまいます。つらくて、悲しくて、家から出られなくなります。

矢を抜いてあげなければいけないのですが、いじめられている人は、この矢を自分で抜くことはできません。周りの人が抜いてあげるしかないのです。「ごめんね。」「だいじょうぶ？」などの言葉。やさしくする、助ける、もうやらないと約束するなどの行動で、ようやく抜くことができます。

今までの自分を振り返ってみてください。いじめの矢をさしてしまった人、いじめの矢を抜いたでしょうか。心から「ごめんなさい。」と言えたでしょうか。自分の周りには矢がささった人はいませんか。もしいたら、声をかけ、励まして、いじめの矢を抜いてあげてください。



しかし、抜かれた後も実は穴は残っているのです。校長先生は50年も前に仲間に入れてもらえなかったことを今でも覚えています。穴は残ってしまうのです。だから、絶対にいじめはなくさなくてははいけません。

11月1日から「なかよし旬間」です。笑顔の戸倉小になるように、先生とたくさんなかよしの勉強をしてください。